学び舎通信

7月号

町内小中学校の情報を
毎月お届けします

生徒達の活躍がすごい

5月28日、29日に行われた柴田郡中学校総合体育大会では、団体の優勝8種目、準優勝3種目、個人戦でも多数の入賞を果たしました。

6月5日に行われた県管打楽器ソロコンテストでは、地区大会を勝ち抜いた生徒が出場し、銅賞を獲得しました。

6月10日に行われた柴田郡陸上大会では、男子優勝、女子準優勝、大会新記録を5つも樹立する大活躍でした。

大会に出場した選手はもちろん、応援の生徒も頑張りました。写真は郡陸上大会のものです。応援リーダーと一年生の生徒達が、ものすごい暑さの中、精一杯の声援を送り続けました。

2学年「職業人に学ぶ会」

2年生の「総合的な学習の時間」では、毎年、色々な職種の方々から話を聞き、将来の職業への関心を高める学習を行っています。

今年は、6月8日に消防士、保育士、役場職員、写真家、販売業務の方々をお招きして、仕事内容や働く喜び・苦労などを直接伺い、意見交換を行いました。講師の方々は生徒達の質問に懇切丁寧に答えてくれました。

グループ毎に話を聞く中で、実際のカメラを持たせてもらったり、中学生へのメッセージを熱く語っていただいたり、身近な保育園の方々からの話を聞いて、将来の職業についてじっくりと考える貴重な時間になりました。

9月に行う職場体験学習に向けて、さらに学習を深めていく予定です。

暗唱大好き

シリーズ③
南小編

校内は暗唱ブーム!!

大河原南小学校では、教室や廊下、校長室、職員室など、校舎内のいろいろな場所から名文、名詩が聞こえてきており、暗唱ブームが起こっています。

このきっかけの一つとして、今年度から始めた「暗唱朝会」があります。第1回では、2年「おがわのはる」5年「為せば成る」「夢七訓」6年「什の掟」が披露されました。全校の前で発表する緊張のためか、なかなか思ったように言えないところもありましたが、学年が上がるにつれて声がそろってきました。

暗唱朝会：5年「為せば成る」

あめのうた　つるみ　まさお

あめは　ひとりじゃ　うたえない、
さっと　だれかと　いっしょだよ。
やねと　いっしょに　やねのうた
つちと　いっしょに　つちのうた
かわと　いっしょに　かわのうた
はなと　いっしょに　はなのうた。
あめは　だれとも　なかよしで、
どんな　うたでも　しってるよ。
やねで　とんとん　やねのうた
つちで　ぴちぴち　つちのうた
かわで　つんつん　かわのうた
はなで　しとしと　はなのうた。

廊下の掲示

このほかにも国語の授業のウォーミングアップとして暗唱読本「寿限無」を活用しています。どんな使い方をすると効果的か教員同士参観して研修を深めています。また、各学年で取り組んでいる暗唱作品を階段の踊り場や廊下に掲示し、日常的に子どもたちの目に触れるように工夫しています。

これからも、おおがわらの暗唱読本「寿限無」を積極的に活用することで、子どもたちに暗唱できたときの自信と喜びの笑顔が広まり、知的好奇心を高めていきたいと思います。

防犯・防災の意識の向上を目指して

6月13日に、「引渡下校訓練」を行いました。これは、大きな災害や事件、事故等の発生で、帰宅は可能だが児童だけの下校が危険と判断された際、直接保護者に引き渡す訓練です。

訓練では、学級担任が、学校へ迎えに来た保護者を「児童引渡しカード」で確認後に児童を引き渡しました。初めての訓練でしたが、保護者の皆様の御理解と御協力で、安全で速やかに実施することができました。これからも様々な避難訓練を行い、児童の防犯・防災の意識の向上を図っていきます。

いちご狩り

6月6日、1・2年生74名で中村いちご園さんのビニールハウスでいちご狩りを楽しんできました。

今年は、いちごの生長が早く、いちごの片付けをしなければならない時期にもかかわらず、金ケ瀬小学校の子どもたちのために招待して下さいました。

二つのいちごハウスは真夏のように暑く、それでも子どもたちは、甘くおいしいいちごをほおばりながら楽しんでいちご狩りをしていました。2年生は昨年度も参加しているのでなれているようでしたが、1年生は、顔をいちごで真っ赤に染めながら悪戦苦闘の様子でした。

愛鳥モデル推進校

本校は、平成28～29年度にかけて「愛鳥モデル推進校」の指定を受けております。この活動の第一弾として県から贈られた「ナナカマド」と「ナンテン」の木を5年生が学校の代表として植樹しました。

当日は、大河原地方振興事務所の担当のかたにもおいでいただき、植樹の仕方や野鳥について教わりました。児童代表の言葉では、「どんな鳥が実をついばみに来るか楽しみ」と話され、それに対し校長からは「ヒヨドリやツグミ、キジバトなどが来るかも知れない」など、写真を交えた説明がありました。この活動を通して、子どもたちに普段は何気なく眺めていた鳥や自然へ興味をもってほしいと思います。

身近な自然再発見

…人間と共生する昆虫たち…

27「水辺のイクメン」

▲コオイムシのオス

育児休業を宣言した国会議員が辞職して話題になったのはつい最近のことでした。男女共同参画社会と呼ばれても男性の育児参加はなかなか難しいようです。でも、ネットブログでは「イクメン」の奮闘ぶりがたくさん紹介されています。昆虫界のイクメンたちも負けていないようですよ。

もともと自然界ではほとんどの虫が卵を産みっぱなしです。例外的にハチやアリの親が子どもの世話をしています。他の虫では水生昆虫のタガメやコオイムシも子育てをします。私は彼らを「水辺のイクメン」と呼んでリスペクトしています。

コオイムシは漢字で書くと「子負い虫」ですから、読んで字の通りです。メスはオスの背中に40個あまりの卵を産みつけると、どこかに行ってしまいます。オスは卵を背負ったまま敵から逃げたり、食事をしたりしながら幼虫が孵化するまで健気に守り育てるのです。

ちなみにコオイムシやタガメの食事はこんな具合です。えさの小魚などを前腕で押さえつけ、とがった口を差し込んで消化液を注入します。それから、溶かした小魚の体液を吸い込みます。

コオイムシやタガメは全国的に減っています。町内の金ケ瀬や小山田の用水堀でもだいぶ少なくなりました。町の昆虫教室の時に網ですくってもさっぱり入らなくなったのは残念でなりません。

メスに丸投げされた卵を背負って、せっせと子育てに励むコオイムシのオスを見れば人間界のイクメン諸氏も元気が出ることでしょう。奥様方のなかにはコオイムシのメスになりかわりたいかたもいるのでは…。

次回は、ハンコチョウマと呼ばれた虫の話です。

元金小校長、昆虫教室(町教育委員会主催)講師　鈴木健司さん